

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	情報伝達システムの整備を通じた、南部デルタ地帯における地域住民の生活環境改善
(2) 事業内容	本事業契約から中間報告までの期間（2014年9月1日から2015年1月30日）に実施した事業内容は以下のとおりである。 (ア) デダイエ郡内新規CAシステム設置予定20村落の基本設計、及び既存CAシステム設置10村落のモニタリングの実施、並びに上記結果に基づく資機材調達、 (イ) ボガレイ郡53村落、及びピアポン郡39村落のワークショップの実施、 (ウ) ラプッタ郡既存CAシステム設置30村落のモニタリング、及びその結果に基づく資機材の調達開始
(3) 達成された効果	中間報告までに達成された主な成果は以下のとおりである。 (ア) デダイエ郡内新規CAシステム設置20村落の基本設計、及び既存CAシステム設置10村落のモニタリング 2014年9月18日から10月2日までに、上記作業を行った。 その結果、CAシステム既設2村落に機器の紛失等管理運営上の問題があり、今後適切な利用が期待できないことから、デダイエ郡タウンシップ長、及び提携団体のUMFCCI（ミャンマー商工会議所）と協議し、CAシステムの設置支援を中止することとした。 一方、デダイエ郡内の他の村落からCAシステム設置支援の強い要望があり、デダイエ郡タウンシップ長、及びUMFCCIと協議の結果、新たに2村落につきCAシステムを設置することとしたい。本件については、事前に民間援助連携室にご相談するとともに、事業変更報告書を提出することとしている。 (イ) ワークショップの実施 ・雨季における事業地環境は水難事故等の危険性が高く、事業推進上の安全性を第一優先に考え、ワークショップの実施時期を乾季に設定することとした。 第1年次事業期間においてCAシステムを施工したボガレイ郡53村落、ピアポン郡39村落の計92村落については、1月14日から28日までの間に実施することができた。

- ・ワークショップは、CAシステムが地域に定着し、できるだけ長く安定的に活用いただけるよう実施するもので、一方的な技術やノウハウの伝達ではなく体験的かつ双方向での意見交換を通じて、CAシステムの意義、非常時・平常時の活用法、システムの保守・運用方法（ラジオの活用、放送アイテム、内容、頻度）、良い活用事例紹介を通して、CAシステムの活用法を体得させることを目的としている。

ワークショップの実施結果概要は以下の通りである。

①日時・場所：

- ・2014年11月14日、18日、21日の3回実施
いずれも午前10時から午後1時～1時30分

（場所）ボガレイ市内中国式僧院

- ・11月26日（*）、28日の2回実施

午前10時から午後1時 （場所）ピアポン市内のレセプションホール

（注*）NGO Seeds Asiaと連携し、防災教育研修を試行し、終了時間は午後2時。

②出席者：BHN本部（東京）から2～4名

BHNミャンマー事務所から5名（他に通訳1名）

対象村落から、各CAシステム運営委員会から3名

③実施内容：

オープニング・スピーチの後、出席者の紹介、ワークショップとは何か、CAシステムの概要と保守・運用上の留意事項、CAシステムのミャンマーの活用事例・日本の活用事例、CAシステム運営委員会の必要性、保守・運営費用、不感地域の把握とその対策等について参加者との意見交換を重視した進め方とし、適宜質問を投げかけ、有意義な意見交換ができた。

また、ミャンマーでの防災教育研修で実績のあるNGO Seeds Asiaと連携してワークショップ実施時に防災教育研修を試行した。

ワークショップは、対象92村落のうち、89村落が参加し、出席者数も各村落概ね3名が出席した。なお、出席できなかった3村落については、現事業期間内に個別にワークショップを実施することとしている。

ワークショップ終了後のアンケート結果は、大変好評であった（非常に良かったとの意見が69%、良かったとの意見は残りの31%）。また、防災教育研修も好評であった。

出席者には、事前に準備した「CAシステムの保守・運用マニュアル」及びプロジェクターを使用しての「説明シートの冊子」、を筆記用具とともに配布したのも有効であった。

ワークショップ実施時の発言、及びアンケートに見られる主な意見は以下のとおりである。

- ・CAシステム設置支援に対する感謝の言葉（緊急情報、天気予報、ニュース、村や学校からの連絡事項等の伝達が可能となり、住民の生活改善につながった。）。

	・ C A システムはソーラー発電システムをつけてくれたので、使用時間が長くなり、非常に良くなった。 ・ C A システムの有用性が近隣の村にまで伝わり、近隣の村からの C A システム設置支援の要望が多いとの意見が多かった。 ・ この辺はほとんど平地で逃げ場がない。そのための支援を是非お願いしたいとの意見も多かった。 (ウ) ラプッタ郡既存 C A システム設置 30 村落のモニタリング、及びその結果に基づく資機材の調達。 上記モニタリング業務は、2014 年 12 月 16 日から 12 月 26 日までに実施した。その結果、C A システム既設 4 村落に機器の紛失等管理運営上の問題があり、今後適切な利用が期待できないことから、ラプッタ郡タウンシップ長及び U M F C C I と協議し、C A システムの設置支援を中止することとした。また、他の 1 村落は、既設 C A システム (2010 年設置) の塩害による老朽化が激しく、J I C A が昨 2014 年 10 月にサイクロン・シェルター建設時に C A システムを設置しており、もう 1 村落は村落合併のため、既設スピーカーの設置台数等を変更することにより、C A システムは 1 式で対応可能であることがわかった。 一方、ラプッタ郡内の他の村落から C A システム設置支援の強い要望があり、ラプッタ郡タウンシップ長、及び U M F C C I と協議の結果、改良工事予定の 6 村落に変えて、新たに 6 村落につき C A システムを設置することとしたい。本件については、6 村落の C A システム新規設置村落が確定次第事業変更報告書を提出することとする。
(4) 今後の見通し	今後の事業見通し 1、C A システムの新設工事及び改良工事の実施：2 月上旬～3 月中旬 2、ワークショップの実施：3 月中旬～4 月上旬 3、モニタリング（新設工事及び改良工事 1 年後の 97 村落について、成果を測る指標について、アンケートまたはヒヤリングにより測定する。）：4 月下旬～5 月下旬 4、竣工検査、経理関係事務処理チェック等：6 月上旬 なお、ワークショップの中で、近隣の村から C A システム設置要望が多く聞かれる、このあたりは平地で逃げ場がない、行政機関からの緊急情報を即知りたいなどの要望があり、今後その対応策について検討する。 特に、緊急時の避難方法については、当該タウンシップと連携し、避難場所、避難方法等を明示したハザードマップの作成について検討を進めこととする。